

深部静脈血栓症予防行動を促進する患者指導方法の検討

西病棟 7 階：○南尚美、橋本多恵、小西真希子
坂本あかり、北川景子、徳田説子

keyword：深部静脈血栓症、弾性ストッキング、
肺塞栓症、患者指導、予防行動

導方法の検討を行う。

はじめに

深部静脈血栓症 (deep vein thrombosis：以下 DVT) は 2004 年 1 月より予防ガイドラインが策定され、同年 4 月より「肺塞栓予防管理」305 点が算定導入されている。宮城らは、「整形外科領域では、周術期の合併症として DVT の発生頻度が高く、以前から予防策がとられてきた」¹⁾と述べており、当科でも手術を受ける患者には間欠的加圧装置、弾性ストッキング (graduated compression elastic stocking：以下 ES) を使用している。この中で ES に対して、不快感、早期除去を希望する訴えが多い現状にある。

ES の不快感、早期除去の訴えが多い原因として、患者が DVT 予防の重要性を十分に理解していない可能性があると考えられた。その理由として、DVT 予防の患者指導の際、口頭指導のみで指導内容にばらつきがあることや、ES 装着時のしめつけ感や暑さが患者の不快となり、装着継続を妨げていることが予測された。そこで、看護師の指導内容の現状と、患者の DVT に対する理解度の現状を明らかにした上で、DVT 指導方法を看護師間で統一し、患者の DVT の理解度、予防行動向上につなげたいと考えた。また、現在は ES 装着患者に対して、毎日の下肢清拭と ES 交換を提供している。そのケアを検討することで、ES 装着継続につなげていきたいと考えた。

I. 目的

1. 西病棟 7 階看護師の患者への DVT 予防に関する指導方法の実態を明らかにする。
2. 上記結果をふまえ、DVT 予防への効果を高める指

II. 研究方法

1. 研究期間：

平成 18 年 6 月～平成 18 年 9 月

2. 対象：

- 1) 西病棟 7 階看護師 15 名。
- 2) 西病棟 7 階に入院、手術を受け ES を装着する予定の患者 21 名。

3. 調査方法：

1) 看護師の DVT 指導方法の実態

「DVT 予防の指導時期」「DVT の説明内容」「DVT の予防方法」「肺塞栓症について」「ES に対する患者の反応」のアンケート調査を行った。

2) 患者の DVT 理解度の変化

入院時、「DVT を知っているか」「DVT の予防方法」などの DVT に関するアンケート調査を行った。

研究者間で DVT・肺塞栓症の説明、DVT 予防に関するパンフレットを独自に作製し、手術オリエンテーションの際に研究者により対象に指導を行った。

術後 1 週間で、入院時アンケートの項目に加えて、パンフレットを用いたことによる理解度の変化、ES 及びケアについてのアンケート調査を行った。

なお、看護師へのアンケート・患者への指導前アンケートについては、プレテストを施行し修正を加え妥当性を考慮した。

4. 分析方法：単純統計処理を行った。

5. 倫理的配慮：対象に本研究の主旨、参加の自由、個人が特定されないこと、アンケート結果は研究以外で使用されないこと等を含めた研究依頼書を用いて説明、同意書にて同意を得た。

Ⅲ. 結果

1. 看護師の DVT 指導方法の実態

「DVT 予防の指導時期」は全員が手術オリエンテーション時であった。「DVT の説明内容」は、エコノミー症候群や新潟の震災のことを例に挙げる、DVT の症状や肺塞栓症のことを説明するなど、内容にばらつきがあった。「DVT の予防方法」は、間欠的加圧装置・ES の使用については全員が説明を行っていた。下肢の運動は 14 名(93.3%)、水分摂取は 4 名(26.6%)、早期離床は 7 名(46.6%)、薬物療法は 2 名(13.3%)が説明していた(図 1)。肺塞栓症の説明は、11 名(73.3%)が行っていた。ES に対する患者の反応は、全員が ES に対する不快の訴えを受けていた。不快の内容は、主に「暑い・むれる・かゆい」であった。

2. 患者の DVT 理解度の変化

1) 指導前の患者の背景

対象 21 名の 57.1%が 60 歳以上で、男性 11 名(52.3%)、女性 10 名(47.7%)であった。対象のうち 19 名は、今回の入院・手術以外に入院・手術経験があった。

2) 指導前のアンケート結果

「DVT を知っている」は 1 名(4.8%)、「DVT を知らない」は 20 名(95.2%)であった(図 2)。「エコノミー症候群(ロングフライト症候群)を知っている」は 12 名(57.1%)であった。「肺塞栓症を知っている」は 3 名(14.3%)であった。

3) 指導後の患者の背景

指導前の対象 21 名のうち、指導後アンケート調査を行えた者は 10 名であった。行えなかった対象は、退院した者、ES を装着しなかった者、術後翌日離床し ES を除去した者であった。対象 10 名の 70.0%が 60 歳以上で、男性 5 名(50.0%)、女性 5 名(50.0%)であった。

4) 指導後のアンケート結果

「DVT を知っている」は 4 名(50.0%)、「DVT を知らない」は 4 名(50.0%)であった(図 3)。「指導を受けて ES を装着しようと思った」は 8 名(88.8%)、「ES は不快と感じる」は 5 名(55.5%)であり、そのうちの 4 名(80.0%)は「指導を受けて ES を装着しようと思った」と答えた。「毎日の下肢清拭で満足して

いる」は 8 名(88.8%)、「パンフレットで DVT の理解は深まった」は 7 名(87.5%)であった(図 4)。

Ⅳ. 考察

看護師の DVT の指導時期は、全員が手術オリエンテーション時であったが、指導内容にばらつきがあることが明らかになった。その要因として、看護師間で統一した指導方法が確立されていないことが考えられる。

患者の指導前のアンケートから、DVT の認知度は低いことが明らかになった。患者はエコノミー症候群という言葉を目にしたことがあるが、DVT との関連を理解するまでには至っていないと考える。パンフレットを用いた指導後も、対象の半数が DVT を知らないと答えており、全員の理解には至らなかった。この理由として、患者が高齢であったこと、指導時期が手術前のオリエンテーション時のみであったことが考えられる。また、手術前は患者の意識が手術に向けており、十分な理解に繋がらなかった可能性がある。

毎日の下肢清拭と ES 交換に対して 80.0%が満足しており、対象は現行のケアを肯定的に捉えていると考える。しかし、看護師全員が患者より ES に対する不快の訴えを受けていたことから、現行のケアの提供のみならず、患者の個別性に応じたケアの提供を検討する必要がある。

また、ES を不快と感じる患者の 80.0%は、指導を受けた事で ES 装着を継続しようと思っており、指導により対象の予防行動への意識が高まったと考えられる。患者指導の時期は、中川らは「入院からパンフレットを用い指導することで、患者の意識の向上に繋がり、看護師で具体的に統一した看護が提供できた²⁾」と述べており、手術前のみならず、入院時から指導が必要であり、手術後も継続していく必要があると考えた。

パンフレットを用いた指導により、DVT と ES に対する患者の理解は深まった。今後は、病棟看護師全員がパンフレットを使用することで、統一した指導を行っていく事が出来るのではないかと考える。

今回の看護研究を機会に、再度看護師で意識の向上に努め、患者指導を行うことで患者の予防行動促進に繋げ、患者・看護師の反応から、パンフレット内容の検討も継続していく必要があると考える。

V. 結論

1. 患者は DVT についての認知度が低く、患者指導が重要である。
2. 看護師の DVT 指導はばらつきがあり、パンフレットなどを使用しての統一した指導方法が必要である。
3. DVT 指導時期は、入院時、手術オリエンテーション時、手術後と継続して行う必要がある。
4. ES 装着継続のためには、毎日の下肢清拭と ES 交換の継続、DVT 予防の指導が必要である。

引用文献

- 1) 宮城智賀子：予防ガイドラインに沿った効果的な実践，整形外科看護，9（12），p20，2004.
- 2) 中川名帆子他：深部静脈血栓症における患者指導方法の検討ーリスクマネージメントリストの導入によるリスクの判定と指導内容の統一を目指してー，第35回看護総合，p20，2004.

参考文献

- 1) 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン作成委員会：肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン，Medical Front International Limited, 2004.
- 2) 星俊子：DVT の病態ー発生メカニズムと発生頻度ー，整形外科看護，9（12），p10-14, 2004.
- 3) 岡田武夫：深部静脈血栓症のギモン，エキスパートナース，19（6），p95, 2003.

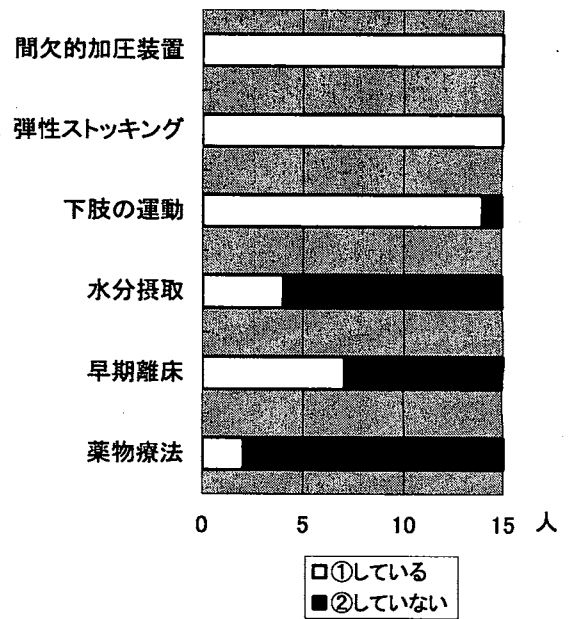


図1 DVT予防に関する患者指導の実施状況

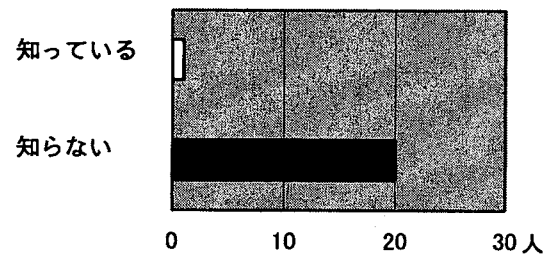


図2 患者指導前のDVTに対する理解度

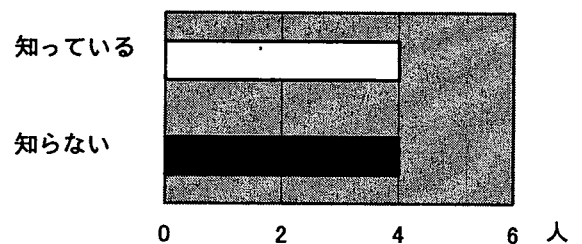


図3 患者指導後のDVTに対する理解度

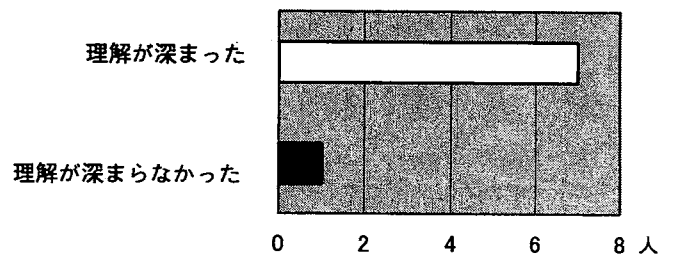


図4 DVTの理解度に関するパンフレットの効果